

# ときめき インタビュー



ピエール中野  
ピエール なかの/Pierre Nakano

## …プロフィール…

本名・中野正敏。昭和55年7月18日、越谷市生まれ。高校を卒業後、音楽専門学校を経てドラマーとして本格的な音楽活動をスタート。平成16年に「凜として時雨」(通称:時雨)に加入し、17年に自主レーベルから1stアルバム『#4』を発表。20年にはメジャーレーベルに移籍し、22年のアルバム『still a Sigure virgin?』がオリコンチャート1位を記録。高度なテクニックを駆使した豪快かつ繊細なドラムプレイは音楽業界でも一目置かれ、星野源、GLAY、ももいろクローバーZなどのレコーディングにも参加している。

## ぶっ飛んだサウンド「時雨」との出逢い

中野さんが「凜として時雨」のメンバーになったのは平成16年、23歳のとき。



ドラムを教えるのも好きで、最近は台湾・香港でもドラムクリニックを行ったそう。

「凜として時雨」は、音楽界の突然変異、と評されるほど、独創的な世界感を持つロックバンド。ドラムスのピエール中野さんは生まれも育ちも越谷で、自他共に認める「越谷愛」あふれる人。地元、そして音楽への熱き思いを語っていたいただきました。

## ★北都市民会館の音楽室が僕の音楽のルーツ

「越谷市から取材の話が来たとき、ようやく来たか！とすごくうれしくて。本当に光栄です」と開口一番語ってくれた中野さん。今回のインタビュー場所となった北都市民会館の音楽室は、中野さんにとって特別な場所だと言います。

遊びで叩いていました。そして仲間の一人が「中野、ドラム似合うな」と言ったんです。それで結構その気になっちゃって。遊びで叩きながらもなんとなくできそうな感覚があったし、ギターは他に上手なメンバーがいたので、だったら僕はドラムをやるうかと。この音楽室がドラマーになるルーツなんですよ。」

中学を卒業するときは同会館の劇場でライブを開催。ちょうど同じころ、憧れのバンド・X・JAPANのライブビデオを観てYoshikiさんのドラムパフォーマンスに衝撃を受け、高校からは

## ★いい店もいい景色も多い。でも越谷の一番は「人」

これまで雑誌やラジオなどさまざまなところで、越谷のいい所自慢を発信し続けてきた中野さんの「越谷推し」は、周囲の音楽関係者やファンの間では有名な話。とにかく居心地がいいので、現在も越谷をよく散策するそうです。

「越谷はなんといっても、人がいい。とにかく優しいし、結束も強いですよ。僕は食べ物屋探しをするのが好きで、越谷でも気になるお店にふらつと入ったりするんですけど、マスターや常連さんが本当に優しく迎え入れてくれて、それ以降飲み友達になったりね。そういう店ってまた料理もつまみんですよ！それから景色の良さも好きだな。県民健康福祉村で見る夕焼けは抜群にきれいな！」と中野さん。バンドのツアーでいるんなら地域を回るようになってから、地元の良さを一層強く感じるようになったとか。



DJ中野の定番曲は嵐のデビュー曲「A-RA-SHI」。

「越谷は探せば探すほど魅力が見つかる街。例えば花田苑の近くに住んでいても、一度も行ったことがない人もいると思いますが、入ってみると間違いなく素



「凜として時雨」ドラムス

ピエール中野さん

越谷は探せば探すほど魅力が見つかる街。これからはずっと「越谷推し」です！

## 音もパフォーマンスも含め、圧倒的に「スーパー」と思われるドラマーであることが目標

本気でドラムの腕を磨く毎日。「当時の越谷は本当にバンドのレベルが高かったです。サンシティで「バンド甲子園」というコンテストがあったんですが、プロでも難しいような曲のコピーをするバンドばかりで。当時はテクニックを競うことが普通だと思っていましたけど、その後音楽の専門学校に入って、自分が学年のトップレベルだと分かって、越谷はすごかったんだ！と実感しましたね。」

## ★「時雨」のドラムス以外にも多彩な活動

「凜として時雨」の活動を核と

「変わったバンド名が気になって時雨のホームページを見て、楽曲を聞いたところ、格好よくて。相当な人気バンドだろうと思ってライブに行ったのに20人くらいしか入ってなくて、こんなはずはないだろうと。どのバンドにも似ていない強烈に個性的な時雨サウンドは、もっとうんなりに知られるべきだと思いましたね。そんな出会いから半年ほど後に時雨のドラムスが脱退することになって、メンバーが僕に声を掛けてくれました。その時は別のバンドに入っていましたけど、どうしても時雨がやりたくて移ったんです」と中野さん。それ以降、時雨の魅力はジワジワと浸透し、今や熱狂的なファンを持つバンドに成長。アジアやヨーロッパにも活動の場を広げています。

「誰もやったことがないことをやってみたい」と思い、僕が信頼するドラマーに声を掛けて実現しました。自分でも感無量の出来栄で周囲の音楽関係者だけでなく海外の音楽関係者からも評価してもらって、ずっと残っていく意味のある試みになりました。そしてもう一つ、中野さんの顔となっているのがDJ。嵐やAKB48といったアイドルの楽曲を使うなどジャンルを超えた選曲が持ち味。DJをやるときのモットー

晴らしい庭園！うちの地元は何もなくて…って簡単に言わないで、もっと越谷の魅力に気付いてほしいですね。今後越谷をアピールし続け、関わり続けていきたいという中野さん。最高に地元を愛し、最高の音を出すロックなドラマーの活躍にぜひ注目してください。

ピエール中野オフィシャルホームページ  
<http://www.pinakano.jp/>  
ピエール中野ツイッターアカウント  
@pinakano  
ピエール中野インスタグラム  
@pinakano0718



越谷で中野さんを見かけたら、気軽に声を掛けてみてください。